
死ぬ前に

半沢良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死ぬ前に

【Nコード】

N0361W

【作者名】

半沢良

【あらすじ】

死のうと思っている方に読んで欲しい。そして話して欲しい。そんなメッセージ。

生きる理由っていうと、なんかこう正しくて綺麗なものを求めたがるけどよお、実際のところ、生きる理由ってより、死なねえ言い訳って考えたほうがよっぽど分かりやすいんだよな。俺が思春期の頃にやあ、だあれも教えてくれなかったし、考えても仕方ねえみたいに、みんな諦めてただけだよお、でもそれってそいつらの想像力がたんに足りねえだけなんじゃねえの？って思うんだよな。要するに、考えないってことはバカだと思っわけよ。なんで？ってそりゃ、考えるより実際にやんなきゃいけねえことなんてのは山ほどあるだろうよ、だけどさ、なんにも考えず、何も感じず、ただ必要とされることをやってますって、そりゃ生きてるっていわねえよ。俺もさ、この感情とやらを無くして、あいつらみたいに生きていこうとしたときもあつたさ。だって他のやつもみんな、あいつらの側だったんだからな。でも俺にやあどうしても無理だった。心が全身を支配して、必死に抵抗してるみてえだった。身体が震えてんのに、自分の意思じゃ動かせねえ、そしてバカみてえに涙がこぼれてきやがるんだ。そりゃどうしたって無理だってわかるだろうよ。んでもって、どうせあいつらの、みんなの側にいけねえ一人ぼっちなら、と生きてゆくことに大きな不安を感じたんだよ。

いや、大きな不安なんてものじゃねえな、それはもうとてつもないもんだつたさ。これから進む道は、針のむしろで、靴を脱ぎ、駆け足で進めって言われてる気分だったね。そんなのにまで耐えて生きる必要ってどこにあんだって、全身の毛を逆立たせて叫んださ。そんで、針の道の目の前で立ち止まって、穴掘って、そこに逃げ込んだんだ。しかし、その洞穴がまた小さくて、暗くて、じめじめして、ついでに変な生ごみをレンジでチンしたみたいない匂いがしてきてよお、一瞬で、そこに長いちやいけねえって思ったさ。けど、

いざ穴から出ようとすると、針の道は夏の雑草みてえに、バカみにでつかくなって、針の道つてより、針山そのものだったんだ。俺の立場にもなってみるよ？そりゃ仰天したさ。んで、どうにも出ずに針山の成長を見守つてるとよお、自分の洞穴の底が盛り上がってきたんだよ。そんな時の俺のあわてふためきようはさぞ滑稽だったろうよ。でも俺はあまりにも必死だったんで、そんなことはあんま憶えてないんだよな。唯一憶えてるのは、底から飛び出した針に向かつて、「おめえなら仕方ねえ」ってつぶやいたことだけさ。なんで、んなこと言ったのかは分かんねえけど、それしか憶えてねえもんで、どうしたもんかな。

それでまあ、気がついたら俺は消毒液くせえベッドの上だったつてわけよ。そんでよお、つまり俺が何をいいてえかってえと、死ぬことはこえーってこと。もちろん生きることとつれえし、いてえし、恥ずかしいことばっかだろうよ。けどよお、それを感じることが出来て、意味をつけて、笑い話に変えられるのは、おめえしかいねえわけよ？だからよお、俺に聞かせてくれねえかな。おめえの話を。

（後書き）

話をする。どんなことでもいい。うまく言えなくてもいい。言葉にすることは決して楽なことじゃないかもしれない。でも、それでも話をしてほしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0361w/>

死ぬ前に

2011年10月9日03時55分発行